

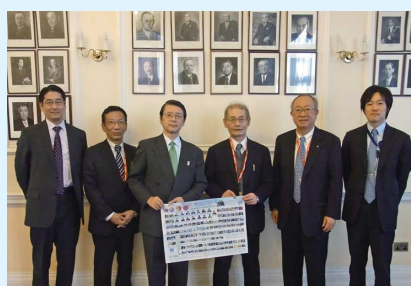
日本発のイノベーションを欧州へ 日欧・科学技術イノベーションシンポジウム2013開催

本年3月、英国とスウェーデンにおいて、日本化学会が主催する日欧・科学技術イノベーションシンポジウムを開催した。

昨年、在英国日本大使館奥篤史一等書記官（科学技術担当）、在スウェーデン日本大使館松本英登一等書記官（経済班）との打合せにおいて、日本の科学技術の成果を紹介する講演会の開催を期待していることがわかり、そのアレンジと開催定例化の可能性について検討した。

開催趣旨は、今後の継続性を念頭に、欧州の科学・技術コミュニティに対して、科学・技術・イノベーションにおける日本発の独創性に富んだ地球規模での貢献を紹介することとした。この趣旨に沿って、持続可能な発展を可能にし、生活や社会への多大な影響を及ぼすような成果を生み出した日本の研究者を招聘する。今回は産業界から、リチウムイオン電池（LIB）の発明者である吉野彰博士（旭化成株式会社・日本化学会フェロー）を招聘、「Lithium-Ion Battery—The Inception, Development, and Future」のテーマで講演会が行われた。

開催準備並びに当日の運営にあたって、両大使館、日本学術振興会（JSPS）ストックホルムセンター、英国王立化学



周期表を掲げる林大使と吉野博士。左から、伊藤直樹公使、川上文明旭化成 GM、林景一大使、吉野彰博士、川島常務理事、奥篤史一等書記官

会、旭化成の全面的な協力を得て、発案から約2ヵ月半で開催にたどりつくことができた。スウェーデン・日本基金（JSF）Edvard Fleetwood 氏並びにスウェーデン王立工学アカデミー（IVA）の協力は絶大であり、また日本化学工業協会、欧州化学工業会（CEFIC）などから事前アナウンスをしていただいた。

吉野博士は講演の中で、1981年にLIBの研究を開始し、1985年に基本的なシステムが完成、1992年に上市したと経緯を述べた後、技術開発の内容とブレークスルー、今後の市場動向と技術開発の方向性（電圧を向上するための Bipolar 電極、非接触型充電）などについて、開発への熱い思いとともに語った。

また、1995年はIT革命スタートの年であり、そして今、まさに「Energy &



スウェーデン王立工学アカデミー Bo Normark 氏（司会）、吉野博士、Kristina Edström 教授によるディスカッション

Environment Technology」の「ET 革命」の時代に入っていると宣言した。ロンドンでは、林景一大使から Opening Remarks で挨拶いただき、司会を務められた伊藤直樹公使や英国王立化学会 Robert Parker 常務理事とともに、講演会からレセプション終了まで出席いただき、和やかに歓談した。またストックホルムでも、渡邊芳樹大使やスウェーデン王立工学アカデミーの Bjorn O. Nilsson 会長らが、最初の挨拶からレセプションまで出席いただき、幅広い関心が示された。



渡邊芳樹大使と Björn O. Nilsson スウェーデン王立工学アカデミー会長

主催・協力団体関係者は一様に成功裏に終了したことを評価し、今後も科学・技術に関するシンポジウム開催を検討していくこととした。

（川島信之（日本化学会常務理事））

© 2013 The Chemical Society of Japan

Japan-UK/Sweden Science, Technology & Innovation Symposium 2013

	ロンドン（3月5日）	ストックホルム（3月7日）	ヨーテボリ（3月8日）
場 所	英国大使館	王立工学アカデミー（IVA）	チャルマーシュエーデン工科大学（CUT）
主 催	日本化学会、大使館、旭化成	日本化学会、旭化成	日本化学会、旭化成
協 力	英国王立化学会	IVA、大使館、JSF、JSPS	IVA、大使館、JSF、JSPS
講 演 者	吉野彰博士 Prof. Anthony West/Sheffield 大学	吉野彰博士 Prof. Kristina Edström/Uppsala 大学	吉野彰博士 Prof. Per Jacobsson/CUT Dr. S. Bjärsvik/Volvo（欠席）
出席者数	70名	100名	75名